

令和4年度 第2号  
長崎県立ろう学校  
自立活動部

## 聴覚障害者用シェアハウス「結（ゆい）」

聴覚障害者のためのシェアハウス「手話ハウス 結(ゆい)」は大村市黒丸町にあります。今年5月に開所しました。ランプの点滅で来客を知らせる「フラッシュベル」やボタンを押すと119番通報して自動で施設名や住所、火災の発生を告げるシステムなどが設置され、聴覚障害者が暮らしやすい工夫がされています。聴覚障害者専用のシェアハウスは全国で初めてのことです。



## 使ってみて！「UD トーク」

「UD トーク」というアプリをご存じですか？ 「UD トーク」は会話の見える化アプリです。スマートフォンやタブレットに無料でダウンロードでき、1対1の会話から大人数のミーティングや会議まで、様々な人とコミュニケーションをとるのに活用できます。

- **一人で使う場合** 「話す」「キーボード入力」「手書き」のどれかを使って、伝えたいことを文字化し、その画面を相手に見せることで会話ができます。健聴者が聴覚障害者と話したいときにスマホにこのアプリを入れていたら、オンタイムで「会話」できます。また、聴覚障害者から、相手にUD トークを差し出して話してもらい、文字で読む使い方もできます。ドラマ「silent サイレント」でも聴覚障害者の主人公が、UD トークを使って友達と話す場面がありました。
- **「講演会」で使う場合** アプリ画面をプロジェクターに映すことで字幕として使えます。障害の有無に関係なく大勢の人と講演内容が共有できます。ドラマ「ファイトソング」では、最終回でUD トークをプロジェクターに映して思いを伝えていました。
- **複数でトークする場合** 「トークを公開する」をタップするとQRコードが作られます。一緒に参加する人たちに作成したQRコードを読み込んでもらえば、各自の発言がオンタイムで画面上に共有できます。伝える手段を多く持つにこしたことはありません。状況やニーズに応じて、手話や筆談、読話、音声認識など組み合わせて使っていくことが理想です。



## オノマトペってなに？

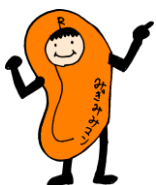
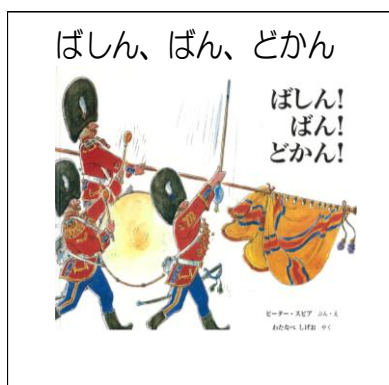
オノマトペには、物事の状態を表す「擬態語（ふっくら、すべすべなど）」、音を言葉で表した「擬音語（ガチャン、ドカンなど）」、人や動物の発する声を表した「擬声語（ワンワン、ブーブーなど）」の3つの種類があります。

オノマトペは『魔法の言葉』とも言われます。その理由として、以下のようなことが挙げられます。

- 脳に直接働きかけイメージを喚起させやすい。
- テンポがよく記憶に残りやすい。
- 様子や場面を分かりやすく表現できる。
- 感覚に訴えかけてくるので「臨場感」が出る。

「見る」一つをとっても「キョロキョロ見る」、「じっと見る」、「さっと見る」、「ぼーっと見る」などオノマトペを使うことでその状況がよくわかります。さらに「喜び」の表現では「いそいそ」「ほくほく」、「怒り」の表現では「かりかり」「かんかん」、「悲しみ」の表現では「しくしく」「わんわん」など人の感情や心の動きを的確に伝える効果もあります。

オノマトペは「耳から聞こえる音」と「人が話している言い方」の2つを掛け合わせて自然と耳から覚えていくものがほとんどです。これらの言葉を知っており、理解できたり表現できたりすることは、学習場面やコミュニケーションの場面で大いに役に立ちます。これらの言葉を視覚的に知ることができる絵本があります。楽しみながらオノマトペの知識を身に付けてみませんか。



文化祭では、自立活動部の展示コーナーもあります。各学部の自立活動で取り組んだことをまとめた模造紙展示や、昔の補聴器も展示します。ぜひ見に来てください。